

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 5 年 12 月 22 日

氏名 大國 七歩

所属 比較教育社会学 ユース

指導教員名 額賀美紗子教授

1. 研究課題 Toward Effective Education for Immigrant Students in Japan: High School Teachers' Conflict Over JSL Education

2. 計画する学術活動の実施期間 令和 5 年 11 月 22 日 ~ 令和 5 年 11 月 24 日

3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し

4. 学術活動

- 国外 国内
- ①英語論文公表
- ②研究科教員の研究プロジェクト参加
- ③フィールドワーク
- ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
- ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
- ⑥研究指導委託
- ⑦留学
- ⑧国際研修
- ⑨国際インターンシップ
- ⑩その他 (具体的に:)

6. 学術活動計画の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(投稿先等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(予定年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(予定年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表予定年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表予定年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(予定年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(予定年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(予定年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(予定年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(予定年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	④ 国際会議
<p>活動内容： 研究発表</p> <p>学会名： ERAS International Conference and WERA Focal Meeting 2023</p> <p>国・都市名： シンガポール</p> <p>発表題目名： Toward Effective Education for Immigrant Students in Japan: High School Teachers’ Conflict Over JSL Education</p> <p>発表形式： 口頭(英語)</p> <p>年月日： 2023年11月22-24日</p> <p>概要： 生徒のエスニシティが多様化した定時制高校において、教員が日本語の授業や日本語取り出し授業をどのように捉えているか、およびその教員間の不一致を論じる。生徒の2割が移民背景を持つ都市部の三部制定時制高校において、教科を問わない一般の高校教員と、日本語または日本語取り出し授業を担当する講師を対象とするインタビューを行った。その結果、どの教員も日本語関連授業を支持はしているものの、一般教員では多言語を用いるなどして学習を補うものという考えが主だった一方、日本語関連講師は生徒のもつ多様な背景を尊重し活かした文化的に適切な指導(culturally responsive teaching)に強調が置かれ、認識に差異が見られた。また、両者間でより良い日本語関連授業や学校のあり方について意見の不一致が見られ、協力が困難な関係にあることが明らかになった。</p>	

(注) ① 年月日は西暦で記入してください。
 ② 英語論文発表については計画する学術活動において発表又は受理されるもの。
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
 ④ 複数回の学術研究活動による計画の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

本学術活動によって、生徒のエスニシティの多様化への対応という教育の現代的な課題について、修士論文『移民背景を持つ生徒に対する教師のまなざし・評価の形成—一定時制高校における質的研究—』の調査で得られた知見に大幅にデータを加え、一般の専任教員教員と、日本語指導等の知識・経験を持ち移民背景を持つ生徒の支援を中心に行う講師間の分断の状況を指摘することができた。発表後のQ&Aセッションでは、さまざまな国の研究者から多くの質問・コメントをいただくことができ、フロアで日本の教員及び日本人の移民・移民背景を持つ生徒に対する意識について議論が起こるなど、重要かつ興味深い研究と評価されたと思われる。

本学術活動は申請者にとって、英語による研究発表の計画・準備・実施の訓練の機会になった。特に、英語での発表要旨の書き方、プレゼンテーションの行い方について、校閲を受けたり教育学部英語サポートデスクのアドバイスを受けたりしたことが非常に勉強になった。また、質問・コメントを受けて回答することで、分析や対象について異なる角度から考えを深める機会を得た。申請者にとってはこれが初めての海外学会の参加であり、要旨の査読が通って発表ができたことが自信につながるとともに、世界中の研究者と関心を共有して議論ができることの楽しさと研究の意義を感じる機会になった。これらは全て、現在の研究「在日ネパール人1.5世のライフコース形成過程:学校文化を通じた適応と達成」の遂行に大いに役立つものである。